

【講義と演習①】

はじめに

新保美香(明治学院大学)

この講義(演習)の目的

- ①後期研修の目的(5つのポイント)の確認。
- ②ストレングス視点の重要性の理解。
- ③「支援を育てる」事例の確認と共有。

1. 後期研修の目的(5つのポイント)

→以下を理解し、実践するための知識・技術の習得を目指します。

- (1)生活困窮者は、多様で複合的な課題を抱えているため、生活面や福祉面での対応も含め、包括的な支援を行う中で就労支援を実施すること。
- (2)本人の自尊感情の回復が支援の鍵となることを理解し、共感的な姿勢で支援を行うこと。
- (3)本人のステップアップを考え、多様なアプローチをとること。
- (4)本人の力、強み(ストレングス)に着目した支援を行うこと。
- (5)就労支援の成果を挙げるためには「出口」の整備が必要であること。各種団体や企業にアプローチし、一般就労、就労訓練事業、就労体験先を開拓し、「地域づくり」を推進すること。

2. 生活困窮者自立支援制度における就労支援(確認)

生活困窮者自立支援制度における就労支援

生活困窮者の多くは、多様で複合的な課題を抱え、自尊感情や自己有用感を喪失している。

このため、本制度における就労支援は、常に本人を起点とし、

- ・就労の意義への理解の支援から、生活面や福祉面での支援までも含めた、包括的な支援の一環として展開する。
- ・本人の状態に合わせ、必要に応じてステップアップも意識しながら支援する。

⇒ 就労支援員自身も、自分の強みを理解し、弱みを補うためにノウハウを学び、考え、実践する。

“きちんと”

丁寧な相談支援

- ・包括的な相談受付、アセスメント、プラン作成
- ・信頼関係の構築と自尊感情、自己有用感の回復に向けた支援
- ・ストレングスに着目した支援
- ・就労意欲の喚起

“みんなで”

チームによる支援

- ・主任相談支援員、相談支援員との協働
- ・就労準備支援事業等の活用
- ・ハローワークその他の関係機関・者との協働

“ずっと”

切れ目のない支援

- ・アウトリーチによる発見・支援
- ・多様なプログラムの用意
- ・個別のニーズに応じた職業紹介
- ・定着支援と企業支援

“つながる・つくる”

社会資源の活用と開発

- ・関係機関・者のネットワークの構築
- ・企業との関係づくり
- ・中間的就労や実習場所等の開拓
- ・居場所づくり
- ・町おこし、地域づくり

3. チームづくり

- ◆ 同じテーブルに着席している3名で、自己紹介をしてください。お一人2分間でお願いします。

<自己紹介の内容>

- (1) 所属・お名前・簡単なプロフィール
(〇〇で有名な、〇〇自治体の...で始めてください。)
- (2) 今一番欲しいものは？

4. 後期研修に向けて…

(1) 後期研修であなたが学びたいことは、どのようなことですか？以下に記入してください。(2分間で)

4. 後期研修に向けて...

(2) (1)に記入したことを、5分間で、チームで共有してください。

5. 「ストレングス視点」の重要性

- (1) ストレングス視点とは、支援対象者のもつ強み、力、よいところ、努力などに着目する視点のことをさします。
- (2) 自立支援、就労支援においては、支援対象者の「いいところ探し」を積極的に行い、そこで見いだした強さやよいところを支援対象者に伝えるとともに、支援に活かしていくことが求められています。
- (3) 自分のよいところを認めてもらい、がんばっていることに対する共感的に受けとめてもらえることで、人は物事をポジティブに捉え、前進していく力が与えられます。

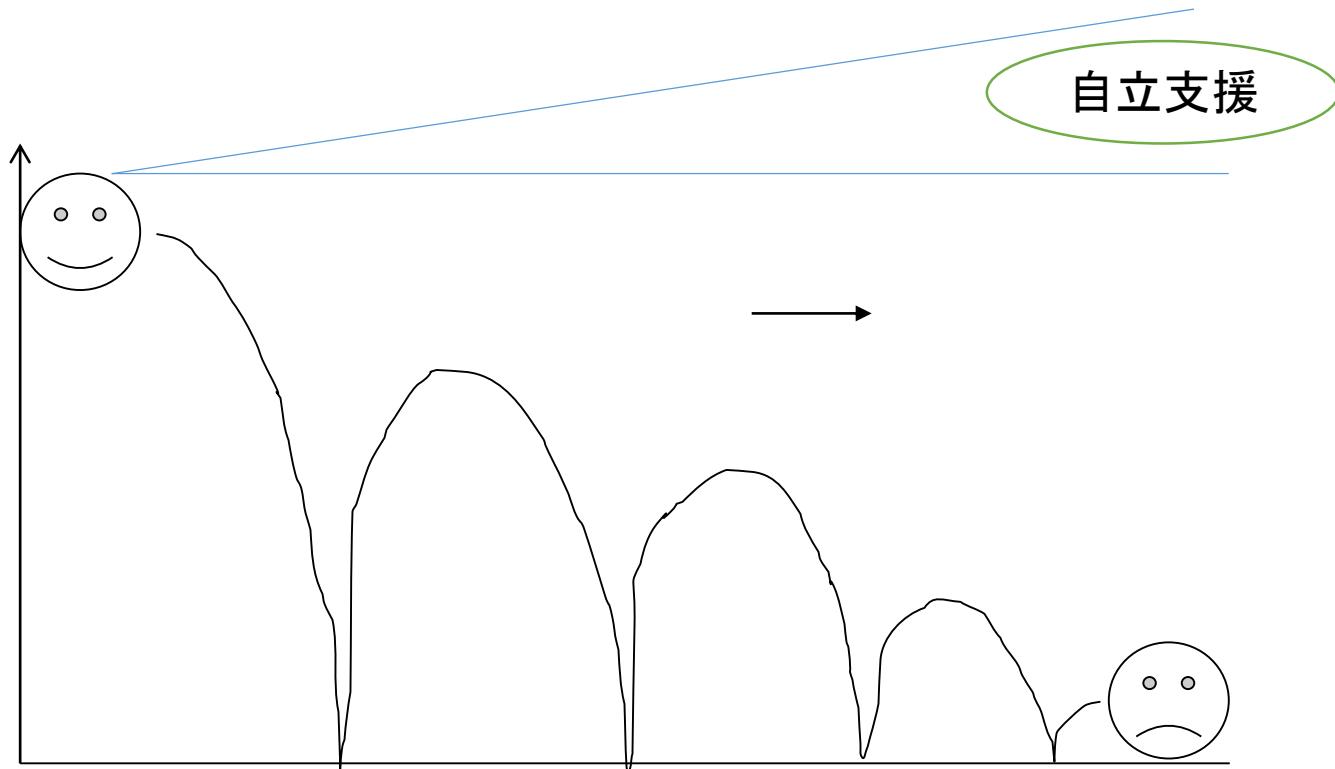
<ワーク:ストレングスを探そう！>

- ◆ 以下の事例から、Bさんのストレングス(個人・環境)をできるだけたくさん見つけてください。

<Bさん(男性 50歳 単身世帯)>

スナックを経営していた。店を3軒経営していた時代もあったが、不景気によりうまくいかなくなり借金を重ねた。この頃よりパチンコ・酒で気を紛らわす生活。妻とは3ヶ月前に離婚。友人に借金してなんとか生活していたが蓄えがなくなり、今日たべる米がなくなっと相談に来所した。

相談者の持つ力を 損なわないために...



※相談者が困って相談してきた時には、「すばやく」「ていねいに」対応する事が大事です！

6. 「支援を育てる」事例の確認と共有 ～後期の事前課題をふまえて～

<事例の共有>

- (1) 後期研修の事前課題を準備してください。
- (2) ご自身が準備された「○○さんの事例」の概要と、
今回その事例を提出されたあなたの想いを、
メンバーに語ってください。
- (3) 報告は、お一人3分間でお願いします。
- (4) メンバーは、報告者の話を傾聴してください。

6. 「支援を育てる」事例の確認と共有 ～後期の事前課題をふまえて～

<1. 事例の整理>

- ①「資料1」に、ご本人の「エコマップ」
(資料2参照)を書いてみましょう。
- ②つながりの強弱や状況を、線の太さ
や種類で表現してください。

つながりの強弱→



つながりの状況→



葛藤あり

6. 「支援を育てる」事例の確認と共有 ～後期の事前課題をふまえて～

➤大切なポイント

ご本人を支えているもの(人)

大切にしているもの(人)を理解すること！

➤「人の生活や生きていくことを支援する」 ためには不可欠な視点です。

(支援員は「問題・課題」の解決ではなく、1人ひとりが
よりよく生きるために支援をしているのです！)

6. 「支援を育てる」事例の確認と共有 ～後期の提出課題をふまえて～

<2. 支援検討シートづくり>

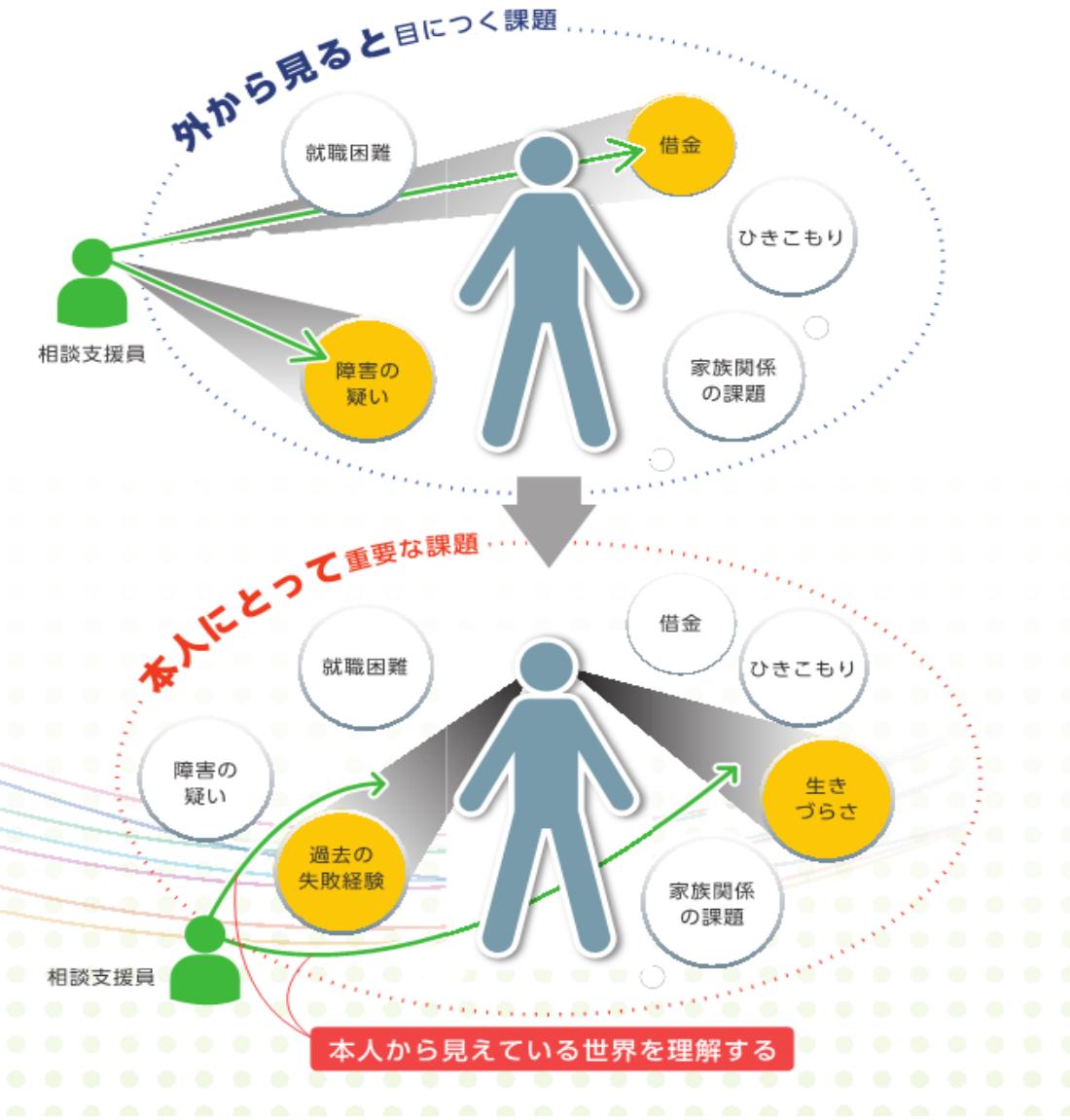
- ①「資料1」の下段に、
「目標」「課題」ご本人とご自身の
「ストレングス」を記入してください。

➤大切なことは... 資料3

本人の側に立って、本人から見える世界への理解を深めること

- 本人理解に際しては、相談支援員の側から本人の状況や課題を捉えるだけではなく、本人の側に立って、本人から見た見た場合に、自分自身の状況や自分を取り巻く環境がどのように見えており、どのように課題を捉えているのか、すなわち「本人から見えている世界」への理解を深める必要があります
- 本人が解決するプロセスは、そこからしかスタートが切れないからです。
- こうした理解に基づく相談支援であってこそ、本人が主体となって課題に取り組むことを支援することにつながります。

<出典>「自立相談支援における事例の捉え方と支援のあり方」『生活困窮者自立支援制度の自立相談支援機関における帳票類の標準化等に関する調査研究報告書』みずほ情報総研、2016年、3頁。



＜出典＞「自立相談支援における事例の捉え方と支援のあり方」『生活困窮者自立支援制度の自立相談支援機関における帳票類の標準化等に関する調査研究報告書』みずほ情報総研、2016年、3頁。

本講義(演習)のおわりに...

<「資料4：支援を育てるシート」について>

- ①研修の合間と一日の終わりに、
「支援を育てるシート」に気づいたことや
これから取り組みたいことを記入してください。
- ②3日間の研修を通じて、
みなさまの大切な支援対象者○○さんの
支援を育てていきましょう！